

# 嵐山町総合戦略 検証結果 (令和4年度)

令和5年11月

**基本目標1**

雇用をつくる &lt;安心して、いきいきと働けるまち&gt;

**■基本的方向**

- 農業を中心とした産業の活性化を図ります
- 新たな企業誘致や町内企業への支援により安定した雇用を創出します
- 就労機会の拡充を図ります

**■数値目標**

	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
町内総生産額	85,652 百万円	90,000 百万円	86,833 百万円 (R2年度)	—			
納税義務者数	8,276人	8,500人	8,387人	8,455人			

**■重要業績評価指標(KPI)**

農業を中心とした産業の推進							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
農産物直売所における農業者の売上高	179 百万円	200 百万円	180 百万円	180 百万円			
嵐山産小麦農林 61号を使った商品の売上高	24,174 千円	70,000 千円	46,612 千円	56,425 千円			
千年の苑ラベンダー農園による経済効果(DMO)	175,555 千円	161,310 千円 (R3年度)	69,007 千円	105,003 千円	—	—	—
千年の苑ラベンダー農園の来場者数(DMO)	75,646 人	100,000 人 (R3年度)	2,279 人	30,509 人	—	—	—
千年の苑観光手芸用施設利用者数(DMO)	156人	1,420 人 (R3年度)	57人	73人	—	—	—
新たな企業誘致と町内企業への支援による雇用の場の確保							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
企業誘致事業による立地及び拡張企業数(累計)	—	3件	0件	1件			
新規創業者数及び第二創業者数(累計)	—	3件	2件	8件			
人材確保のためのマッチング支援事業実施数(累計)	—	3件	未実施 (コロナ)	1件			
潜在的な働き手の確保							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
待機児童数	9人	0人	0人	0人			

■施策の内容

○農業を中心とした産業の推進

<p>実施したこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における農産物生産組合の売り上げ減少を防ぐため、国によるコロナ対策の臨時交付金を活用し、冷蔵縦型オープンケースの購入及び一定額以上購入いただいた方へのサービス品（町内農産物）の買い上げを行った。</li> <li>・コロナ過により開催できなかった「らんざんラベンダーまつり」を3年ぶりに開催することができた。開催期間6月10日～6月26日</li> <li>・更新を迎えたラベンダーの補植用苗木の一部を町内生産者から購入した。</li> <li>・千年の苑観光手芸施設を活用し、ラベンダー苗づくり講習を5月25日、蒸留とラベンダースワッグ作り講習を2月3日、手芸講師養成研修を2月26日、3月9日、17日に開催した。</li> </ul>
<p>効果が あったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス品である町内農産物の買い上げを行うことで生産者の生産意識が高まり、生産量の増加につながった。</li> <li>・「らんざんラベンダーまつり」に30,509人の来場者があった。入場料、駐車場、摘み取り体験、手芸教室、お土産品等（ラベンダー開発商品・肉汁うどん等）による収入のほか、イベント会場に18事業者が出店し、嵐山町観光協会会員及び嵐山町商工会会員に対しても稼げる場を提供することができた。</li> <li>・手芸施設を活用し各種講習会を開催することで、次年度以降のラベンダーまつり等で行うイベント（ラベンダースティックづくり教室など）における講師の確保及び養成ができた。</li> </ul>
<p>課題として 残ったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において農産物直売所の弁当や総菜など加工品に対する需要が増えているが、製造能力に限界があり、納入数の拡大をどう図るかが課題となっている。</li> <li>・小麦の生産面積は、乾燥調製、製粉対応が可能である最大量の13.8haとなっている。今後、協賛店からの需要に応じた小麦の生産及び提供が課題となっている。</li> <li>・ラベンダー園運営について、通年で人が集えるよう四季折々の草花の植栽、住民参加型のマンパワー活用、周辺エリアを含めた事業展開、持続可能な事業の推進が課題となっている。</li> <li>・コロナ禍のため、ラベンダーイベント期間中の手芸施設の活用ができなかった。次年度以降、施設の活用方法について検討が必要である。</li> </ul>

○新たな企業誘致と町内企業への支援による雇用の場の確保

<p>実施したこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花見台工業団地拡張地区において、事業推進のため県企業局、庁内関係機関及び地元権利者等と必要となる調整を行った。</li> <li>・川島地区において組合土地区画整理事業による産業団地の整備を目指し、業務代行予定者の募集選定を行った。</li> <li>・創業を考えている、また開業して間もない方を対象にらんざん創業塾を開催し、令和4年度は14名の参加があった。</li> <li>・嵐山町企業就職説明会を開催し、14企業、41名の求職者が参加した。</li> </ul>
---------------	---

<p>効果が あったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花見台工業団地拡張地区において、県企業局による造成工事が進捗している。</li> <li>・川島地区において組合土地区画整理事業の業務代行予定者を決定し、(仮称)嵐山町川島土地区画整理事業事業推進に関する覚書を締結した。</li> <li>・嵐山小川インターランプ内において、物流施設の建築工事が完了し操業が開始された。</li> <li>・らんざん創業塾の受講者より、嵐山町販売促進支援金給付実施事業を活用した3名の女性創業者が起業した。</li> </ul>
<p>課題として 残ったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花見台工業団地拡張地区については、造成工事完了とその後の企業立地に向けて県企業局と一層の連携が求められる。</li> <li>・川島地区については、設計に向けて業務代行予定者と連携し関係機関等との協議を進めて行く必要がある。</li> <li>・嵐山町販売促進支援金給付実施事業は、国によるコロナ対策補助を活用した事業であり、支援の継続性が課題となっている。</li> <li>・嵐山町企業就職説明会参加後に、就職に結びついた求職者が確認できなかったため、実施方法の見直しを検討する必要がある。</li> </ul>

○潜在的な働き手の確保

<p>実施したこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シルバー人材センターにおいて、就業機会の開拓・拡大を目指して新たに空き家管理業を開始した。</li> </ul>
<p>効果が あったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シルバー人材センターでは、昨年に引き続きコロナ渦で雇用状況も大変厳しい状況であるが、仕事を提供することができた。</li> </ul>
<p>課題として 残ったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シルバー人材センターへの入会希望者が、企業の定年延長等により高齢化してきており、会員の平均年齢も高くなってきている。また、高齢者ゆえのコロナ感染リスクの不安もあり、入会希望者も少なく会員の確保に苦慮している。</li> </ul>

**基本目標 2** 人の流れをつくる <地域資源を活かした魅力あるまち>

■ 基本的方向

- 町の知名度の向上を図り、嵐山町を応援してくれる人の増加を目指します
- 嵐山町への観光客を増やし、関係人口の増加を図ります
- 観光地域づくり法人（DMO）の登録を目指す観光協会と連携し地域の活性化を図ります

■ 数値目標

	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
公式ツイッター フォロワー数	1,263 人	3,000 人	1,801 人	2,262 人			
入込み観光客数 の増加	436,163 人/年	480,000 人/年	196,112 人/年	312,135 人/年			

■ 重要業績評価指標(KPI)

積極的な情報発信による知名度の向上							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
嵐山溪谷バーベキュー場 の来客者数	73,884 人/年	100,000 人/年	31,285 人/年	44,647 人/年			
杉山城跡の来客者数	11,300 人/年	12,000 人/年	11,500 人/年	9,200 人/年			
ホームページ閲覧回数 (DMO 開設サイト)	—	660,000 ヒット	575,915 ヒット	777,747 ヒット			
駅前を拠点とした新たな賑わいの創出							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
地域活力創出拠点の物産 売場での売上高	2,391 千円	61,020 千円 (R3 年度)	5,721 千円	7,031 千円	—	—	—
地域活力創出拠点の来客 者数	327,000 人	339,000 人 (R3 年度)	267,000 人	284,000 人	—	—	—
地域活力創出拠点の観光 情報発信による経済効果	187,437 千円	255,270 千円 (R3 年度)	48,060 千円	51,120 千円	—	—	—
観光×農業による地域資源の魅力創出							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
交付対象事業による施設 の利用者数 (DMO)	—	161,500 人	62,844 人	103,779 人			
交付対象事業による売上 高 (DMO)	—	71,928 千円	28,715 千円	77,057 千円			
地元産品による新規開発 商品数 (DMO)	—	9 商品	8 商品	1 商品			

■施策の内容

○積極的な情報発信による知名度の向上

実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LINE 公式アカウントを開設した。</li> <li>・嵐山町 PR 大使でプロサッカー選手の小池純輝様と X(旧 Twitter) フォロワー増加キャンペーンを実施した。</li> <li>・嵐山町 PR 大使でプロサッカー選手の小池純輝様と嵐山溪谷バーベキュー場の PR 動画(小池純輝選手公式アカウント)を作成し、LINE、ツイッターで配信した。</li> </ul>
効果が あったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LINE 公式アカウントの開設により幅広い年齢層への情報発信が可能となった。</li> <li>・X(旧 Twitter フォロワー増加キャンペーンを実施し、1 か月で 171 人の新規フォロワーを獲得した。(R4 年度の増加数は 461 人)</li> </ul>
課題として 残ったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Twitter、LINE を活用し情報を発信する課が限られているため、全庁的に発信ができるよう各課への呼びかけが必要である。</li> <li>・新聞、テレビ等の各種メディアをより効果的に使い、知名度の向上を図る必要がある。</li> </ul>

○駅前を拠点とした新たな賑わいの創出

実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嵐山町ステーションプラザ「嵐なび」を拠点としたレンタサイクル事業のアシスト自転車を増台した。</li> <li>・空き家、空き店舗、空き地等を活用して、町民の暮らしの中に「ちょっと楽しい、ちょっと面白い、ちょっと心地よい」を感じる魅力的なエリアを創出するためのプロジェクト「Emo-Town. Pro#らんざん (エモタウンプロジェクト)」については「トークイベント」を嵐山溪谷バーベキュー場、駅と駅周辺で3回、このエリアリノベーション支援事業をきっかけにつながった有志により駅連絡通路で「クリスマスマーケット」1回を開催した。</li> </ul>
効果が あったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活力創出拠点である「嵐なび」については、商品点数の増加等もあり、新型コロナウイルスの影響を受けた令和3年度に比べ、特産品や町内事業者の商品販売実績を大幅に伸ばすことができた。</li> <li>・嵐山町ステーションプラザ「嵐なび」を拠点としたレンタサイクルの利用実績が、令和3年度に比べて増加した。</li> <li>・「Emo-Town. Pro#らんざん」において実施した3回のトークイベントでは、県内の本庄市で実践しているファシリテーターとして実際に活動している方々を招き、経験談などを紹介してもらった。嵐山町のエリアリノベーションの実現にむけ、まちのプレーヤー発掘を促すことが目的であった。</li> </ul>
課題として 残ったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活力創出拠点である「嵐なび」において、特産品の販売点数及び委託販売する町内事業者をさらに増加させる必要がある。</li> <li>・「Emo-Town. Pro#らんざん」において次年度以降、アイデアを具体的なイベントとして実現していくことが課題となっている。また、エリアリノベーションは民間事業者が主導し、原則、補助金に頼らず、自らの資金で魅力的なエリアを創出</li> </ul>

	<p>することが目的であり、継続的にエリアリノベーションを進めるため、エリアプロデューサーの発掘が喫緊の課題である。</p>
--	--

○観光×農業による地域資源の魅力創出

<p>実施したこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」において、畠山重忠公が主要人物として登場した記念イベントとして5月15日に「らんざん重忠まつり」を開催した。</li> <li>・コロナ過により開催できなかった「らんざんラベンダーまつり」を3年ぶりに開催することができた。開催期間6月10日～6月26日</li> <li>・地元産品による新商品開発として、嵐山産ラベンダーを活用した「KAZE KAORU RANZAN ラベンダーハンドクリーム」の販売を開始した。</li> <li>・杉山城跡については、パンフレットを役場庁舎ロビー特設コーナー及び杉山城跡入口（外郭）看板脇において通年の無償配布を実施し、また町公式ホームページ上にもPDFを掲載し、見学者等の知識向上に対する利便を図った。「嵐山溪谷紅葉まつり」を11月19・20日に開催した。</li> <li>・嵐山町町名発祥の地である嵐山溪谷につながる槻川沿いの遊歩道からラベンダー園周辺一帯の除草作業を行い、観光客や町内の方の憩いの場を確保した。</li> <li>・河川利用調整協議会を開催し、嵐山溪谷バーベキュー場の近隣類似施設との差別化、さらなる魅力向上のため、河川空間を活用したウォーターアクティビティの実施が承認された。</li> </ul>
<p>効果が あったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「らんざん重忠まつり」に3,500人の来場者があり、畠山重忠公をはじめとした嵐山町の歴史や文化を広く多くの方に知っていただくことができた。</li> <li>・「らんざんラベンダーまつり」に30,509人の来場者があった。入場料、駐車場、摘み取り体験、手芸教室、お土産品等（ラベンダー開発商品・肉汁うどん等）による収入のほか、イベント会場に18事業者が出店し、の各種商品を販売し、嵐山町観光協会会員及び嵐山町商工会会員に対しても町内商工農業者へ稼げる場を提供することができた。</li> <li>・埼玉県新商品AWARDに「KAZE KAORU RANZAN ラベンダーハンドクリーム」が入賞した。</li> <li>・「嵐山溪谷紅葉まつり」に3,337人の来場者があった。多くの方が嵐山溪谷の紅葉を満喫したほか、イベント会場での食事や買い物を楽しんだ</li> <li>・嵐山溪谷バーベキュー場から飛び石を渡り、嵐山溪谷までの槻川沿いの遊歩道は、嵐山町の自然を身近に感じてもらう遊歩道として多くの方が散策している。</li> <li>・「都市・地域再生等利用区域」の指定により、従来徴収していた駐車場料金のほかに、入場者に対しても利用料の徴収が可能となったことで、売上を大幅に伸ばすことができた。</li> <li>・メディア掲載の増加により商品のPR効果のほか、イベントについてもPRができ集客につながった。</li> <li>・杉山城跡については、町からの情報発信、テレビ報道や旅行関連刊行物等のメデ</li> </ul>

	<p>ィアにとりあげられたことにより継続的な賑わいを見せており、大型バスによるツアーのコースにも組み込まれる等、年間を通じて見学者等が絶えない状況である。高度な築城技術と保存状態の良い史跡であることについてより多くの方々にPRできた。</p>
<p>課題として残ったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラベンダー園運営について、通年で人が集えるよう四季折々の草花の植栽、住民参加型のマンパワー活用、周辺エリアを含めた事業展開、持続可能な事業の推進が課題となっている。</li> <li>・ラベンダー商品の残った精油、芳香蒸留水、蒸留をしない分のラベンダー等の有効利用や販売先の開拓が必要である。</li> <li>・嵐山溪谷周辺において引き続き良好な自然を堪能できるよう、遊歩道等を適正に維持管理するための財源確保が課題である。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、観光入込客数がコロナ前と比較し、大幅に減少したため、アフターコロナを見据えた観光施策を実施する必要がある。</li> <li>・河川空間を活用したウォーターアクティビティの実施に向け、運営方法の具体化を進める必要がある。</li> <li>・杉山城跡については、大型バスを利用した見学ツアーの問い合わせがあるのに対し、トイレや駐車場施設が現状で満足な対応ができていない。トイレの改修や駐車場入口及び舗装状況の改善等が必要である。</li> <li>・アクセス道路の案内板、史跡内の看板類や散策路等の修正・整備、史跡の保護対策を行う上で「杉山城跡保存活用計画」等の計画策定が求められている。</li> <li>・嵐山溪谷周辺において引き続き良好な自然を堪能できるよう、遊歩道等を適正に維持管理するための財源確保と斜面の除草ができる業者の確保が課題である。</li> </ul>

**基本目標 3** 安心して結婚・出産・子育てができる社会をつくる <親子の笑顔があふれるまち>

■ 基本的方向

- 結婚の機会拡大と安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進めます
- 夢と希望を持って成長していけるまちを目指します

■ 数値目標

	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
合計特殊出生率	0.87	1.13 (R05年度)	0.97 (R02年度)	0.85 (R03年度)			
地域子育て支援 拠点の年間利用者数	4,806人	5,700人	5,784人	5,536人			

■ 重要業績評価指標(KPI)

結婚・妊娠・出産への総合的な支援							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
乳幼児健康診査受診率	97.5%	100%	98.7%	99.3%			
法定外予防接種の受診率	80.8%	85%	64.9%	67.5%			
子育て支援の充実							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
待機児童数	9人	0人	0人	0人			

■施策の内容

○結婚・妊娠・出産への総合的な支援

実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規事業として、産婦健康診査の助成を開始した。</li> <li>・乳幼児健診や各種相談、教室等、新型コロナウイルス感染症対策を万全に実施した。</li> <li>・子どもを望む夫婦を対象に相談や検査・治療費の一部助成を実施した。</li> <li>・中学3年生を対象としたインフルエンザとおたふくかぜについて法定外接種を行った。コロナ禍でインフルエンザの流行が無く、インフルエンザ接種率が大きく下がった。</li> </ul>
効果が あったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代包括支援センター（健康増進センター）に保健師、看護師、管理栄養士、保育士等の専門職が常駐し連携・情報共有しながら全ての母子を見守る体制が整ったことにより、育児不安の軽減、児童虐待の防止につながっている。</li> <li>・個別通知で乳幼児健康診査の受診を勧めるとともに、新型コロナウイルス感染症対策を万全とすることにより、健診受診率を100%に近く維持することができた。未受診者に対しては、電話、訪問、保育園からの情報等で状況把握している。</li> </ul>
課題として 残ったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出生率の低下に反して支援の必要な母子が増えており、令和元年度に開設した子育て世代包括支援センターにおいて、ニーズに応じたさらなる支援体制強化が必要である。</li> </ul>

○子育て支援の充実

実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年10月からこども医療費が埼玉県内全域で現物給付化となった。</li> <li>・多子世帯への経済的負担軽減として、国民健康保険税については、国保特別交付金を活用し、新たに多子世帯の第3子以降の子どもの均等割額を減免した。また、学校給食費については、第2子に1/2を第3子以降に全額を助成した。</li> <li>・都市公園内の遊具については、法令による定期点検を実施した。児童公園内の遊具については、職員による老朽化の状況の確認を行い、利用状況の少ない危険な遊具は撤去した。</li> </ul>
効果が あったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども医療費の埼玉県内全域現物給付化により、窓口払いの負担軽減となった。</li> <li>・剪定・伐採や遊具の点検不要な、危険な遊具の撤去など公園の維持管理を適切に行うことで、安全性が確保された。</li> </ul>
課題として 残ったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療費助成対象の拡大など経済的負担軽減は、子育て施策としての結果がすぐには表れないため、継続した支援が必要となる。</li> <li>・支援を必要としている家庭が増えてきており、相談業務やケースワークに携わる人員確保が課題となっている。</li> <li>・児童公園の遊具については老朽化が進んでいる。点検結果や利用状況を勘案しながら撤去を行い、使いたくなる遊具へと促していくことが望まれる。</li> <li>・多くの子育て世代の方から引き続き大型遊具の設置の要望がある。大型遊具等の設置とともに、遊具の集約化を行う必要がある。</li> </ul>

**基本目標 4**

住みよい環境をつくる &lt;人が集い、魅力的な暮らしを営むまち&gt;

**■ 基本的方向**

- 武蔵嵐山駅周辺の活性化を図ります
- 安全・安心に暮らせるまちづくりを進めます
- 持続可能な質の高い暮らしの実現を目指します

**■ 数値目標**

	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
転入者数の増加 (社会増減累計)	329 人増 (H28-R01)	200 人増 (R03-R07)	41 人減 (R03)	77 人増 (R04)			
住みよいと思う 割合	76.8%	80.0%	—	—			

**■ 重要業績評価指標 (KPI)**

武蔵嵐山駅周辺エリアの充実							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
武蔵嵐山駅の乗降客数	7,287 人/日平均	8,500 人/日平均	5,942 人/日平均	6,328 人/日平均			
西口駅前広場の整備率	0%	100%	53.2%	88.9%			
安全・安心な地域づくりへの取組							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
自主防災組織における防 災訓練の実施数	35 回/年	36 回/年	18 回/年	12 回/年			
災害時用保存食の備蓄量	6,766 食	8,000 食	7,454 食	7,570 食			
持続可能なまちの機能の充実							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
主体的な道路維持管理団 体数 (アダプトプログラム及び 嵐山まもり隊数)	24 団体	30 団体	32 団体	33 団体			

■施策の内容

○武蔵嵐山駅周辺エリアの充実

実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武蔵嵐山駅西口の放置自転車については、取り締まりをほぼ毎日実施した。</li> <li>・武蔵嵐山駅西口整備事業については、工事を発注した。</li> </ul>
効果が あったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武蔵嵐山駅西口の放置自転車の減少により、良好な環境を確保することができている。</li> <li>・「嵐山町の玄関口の活力の復活」を目標とし、「武蔵嵐山駅西口の良好で魅力的空間の形成」、「武蔵嵐山駅周辺の環境整備と利便性の向上」を図るため、西口駅前が大きく変わり、機運の高まりがある。</li> </ul>
課題として 残ったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武蔵嵐山駅西口事業は、関係機関・隣地関係者との協議を早急に進め、工事施行を終了させることが必要である。</li> </ul>

○安全・安心な地域づくりへの取組

実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍であったが、12の自主防災会のうち8つの防災会が開催方法を工夫し防災訓練を実施した。</li> <li>・各防災会に訓練時の消防団の活用を呼び掛けた。</li> <li>・R3年度末に全戸配布したハザードマップ（防災地図）の内容説明等を地域に実施した。</li> <li>・地域やPTA等による下校の見守りをメインとしたパトロール活動を実施した。</li> <li>・防災行政無線やメール配信サービス「嵐山町あんしんメール」を活用し、防犯情報等を町民へ提供した。</li> <li>・新たな防犯灯(LED)については、地区の要望に対し、基準に見合った場所に設置することができた。</li> </ul>
効果が あったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練を実施することで災害対策における意識を醸成できた。</li> <li>・地域の防災訓練に消防団がサポート参加することで、相互の連携がより深まった。</li> </ul>
課題として 残ったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年続いたコロナ禍により、自主防災会の意欲や活動が縮小傾向である。</li> <li>・R4年度末から特殊詐欺被害(振り込め詐欺等)が多発しており、対策が急務である。</li> <li>・道路照明灯など大型電灯はLED化されていない。今後のLED化するための費用の確保が課題である。また、機器リースが終了した後の修繕については、修繕費用が必要となるため、財源確保が課題である。</li> </ul>

○持続可能なまちの機能の充実

<p>実施したこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 27 年度より開始した草の根的なボランティアである嵐山町まもり隊については、21 団体 250 名が公園や道路などの環境美化活動、生涯学習分野でのボランティア活動を行った。</li> <li>・里地里山の保全管理については、町内での活動団体（6 団体）により、広野地内、花見台地内、菅谷地内、千手堂地内、鎌形地内他で活動が実施された。</li> <li>・秋の美化清掃活動については、新型コロナの感染状況が若干落ち着いたため、実施することができた。活動にあたり環境美化推進委員会議において「彩の国「新しい生活様式」における地域清掃活動」を配布し活動方法を周知した。</li> </ul>
<p>効果が あったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「嵐山まもり隊」など地域住民の方のご協力により維持管理がされている公園・緑地が増加した。</li> <li>・コロナ禍であったが各団体が工夫した活動を行うことで、里山の維持管理が計画的に進められた。</li> <li>・秋の美化清掃活動では多くの町民が参加し、快適で美しく清潔な居住環境を整えるといった活動目的は達せられた。</li> </ul>
<p>課題として 残ったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嵐山町まもり隊の新規登録団体数や登録者数はここ数年で増加したが、登録者の高齢化が進んでいる。作業効率のよい機械等の支援を行うことで少人数でも活動が可能ではあるが、財政面での課題がある。</li> <li>・里山保全活動にあたり町等からの補助を要望している団体もあり、支援方法について検討する必要がある。また、各団体の構成員が高齢化しているので、後継者の育成と確保が課題となっている。</li> <li>・コロナ禍での活動であったため、例年の参加人数には至らなかった。今後も感染状況を鑑み、感染対策を取ったうえで美化清掃活動を行っていく。</li> </ul>